

平成 28 年度第 2 回木更津市郷土博物館金のすず協議会会議録

- 1 日 時 平成 28 年 11 月 8 日（火）午後 1 時 30 分～3 時 30 分
- 2 場 所 木更津市郷土博物館 金のすず 多目的室
- 3 出席委員 委員長 中村哲委員長
委 員 圓谷加陽子委員、積田等委員、高橋めぐみ委員
（藤浪弘美委員、荻野敬次委員欠席）
- 4 出席職員 高澤茂夫教育長、山口玲子教育部参事兼文化課長
石井館長、半澤副館長、稲葉副主幹、井上副主幹、
伴主査、多田主事
- 5 傍聴人数 0 名
- 6 委嘱状交付 中村哲委員、圓谷加陽子委員、積田等委員、高橋めぐみ委員
委嘱状交付 （藤浪弘美委員、荻野敬次委員は後日交付）
- 7 正副委員長の選任
委員長 中村哲委員、副委員長 藤浪弘美委員を選出
（藤浪委員は、後日了承）
- 8 議 事
 - （1）報告 1 平成 28 年度上半期事業報告について（公開）
 - （2）議題 1 平成 28 年度下半期事業計画について（公開）
 - （3）議題 2 平成 29 年度事業計画（案）について（公開）
 - （4）その他 博物館使用料・手数料の取り扱いについて（非公開）

9 議事内容

事務局（稲葉）： それでは、平成 28 年度第 2 回木更津市郷土博物館 金のすず協議会を開催いたします。本日は藤浪委員と荻野委員の 2 名が欠席でございますが委員の半数以上のご出席をいただいておりますので「木更津市郷土博物館金のすず協議会運営規則第 8 条」により会議は成立しております。また、「木更津市審議会等の会議公開に関する条例第 3 条」に基づき、本会議は一般公開となっておりますが傍聴人は 0 人です。それでは会議開催にあたり、高澤教育長からご挨拶申し上げます。

教育長： 挨拶

事務局（稲葉）： ここで、改めて職員の紹介をいたします。

山口教育部参事兼文化課長、石井博物館長、半澤副館長、井上副主幹、

伴主査、多田主事、私 稲葉副主幹でございます。

事務局（稲葉）： これよりお手元の会議次第により協議会を進行させていきたいと思います。

本日の会議は、委嘱後第1回目の会議ですので、委員長・副委員長がまだ決っておりません。

事務局提案として石井館長が仮議長を勤めさせていただき、正副委員長選出を行いたいと思いますが、いかがでしょうか

委員： 異議なし

事務局（稲葉）： 異議がないようですので、石井館長に仮議長を務めていただきます。

仮議長（石井館長）： それでは、委員長・副委員長が選任されるまでの間、暫時仮議長を務めさせていただきます。

お手元の3正副委員長の選任について審議いただきたいと思います。

このことについて事務局に説明をお願いします。

事務局（稲葉）： 本議題は「木更津市郷土博物館金のすず協議会運営規則第2条第2項」の規定により委員長・副委員長の選出を求めるものです。委員長・副委員長の選出をお願いいたします。

仮議長（石井館長）： ただ今、事務局から説明がございましたとおり規則には「委員の互選により定める」となっておりますが、いかがいたしますか？

高橋委員： 引き続き中村委員に委員長を藤浪委員に副委員長をお願いしたいのですが、いかがでしょうか。

仮議長（石井館長）： ただ今、高橋委員から委員長には中村委員、副委員長には藤浪委員をとの提案がありました皆様いかがでしょうか。

委員： 異議なし

仮議長（石井館長）： ありがとうございます。なお藤浪委員につきましては、本日欠席でございますけれどもこのあと事務局の方から藤浪委員にご了解いただけるよう努めて参りますのでご理解いただければと思います。た

だ今をもちまして委員長、副委員長が決定いたしましたので議長職をおろさせていただきます。大変ありがとうございました。

事務局（稲葉）： 誠に申し訳ございませんが高澤教育長には他の公務のためここで退席させていただきます。

事務局（稲葉）： ただ今選出されました、中村委員長にご挨拶をお願いいたします。

中村委員長： 挨拶

事務局（稲葉）： それでは、委員長には議長として、この後の議事進行をお願いいたします。

議長： では議長として議事を進めます。報告（１）の「平成２８年度上半期事業報告について」事務局に説明を求めます。

事務局（半澤）：（資料に基づき説明する）

議長： 事務局からの説明がありましたが、ご質問、ご意見等ありましたらお願いいたします。

これだけの事業をするのは大変だけど、美術関係の方は意外と人気があり、何かできれば面白いと思います。博物館友の会の 154 名はよくもっていますね。予算的には 300 万円位無いときつくないですか。

多田主事： 会員の努力で行っています。毎年少し繰越があります。

議長： 金のすずの友の会は、上総博物館時代から有名だからもっと大きく出て、ある程度予算的に確立していないといけないと思います、県立の博物館、美術館は、みんな解散したのではないかな。ここの友の会の会員が 154 名いるのはすばらしい。

新しく学校と提携して増やしていく。友の会と言わないでミュージアムフレンド制を導入しても良い。ミュージアムフレンド制だと自分が気の向いた時とか、得意な技で協力しますよと言ったフレンド制で、段々深入りしてきて友の会に入る、そのような形で外堀をもっと広げて次の世代を育てる方法もあります。その時に、学校の先生方に声をかけてもらおうと、

学校は意外と待っているところがある。参加したいのだけど、どうやって参加していいかわからないところがある。学校の先生ができないところを博物館職員が行って講義するとか、相互に協力すれば、絶対のって来ます。学校の先生とか婦人会とか子供会とか老人会とか、そういうところはどんどん出ていくと引っ張り込めます。そうしないとどんどん尻つぼみになってしまいます。ある程度熱心な狂信的に熱心な人たちがいますが年をとってくると参加しなくなります。だから先を読んで、外堀を何重にも作った方が良い。そのためには学校教育と提携しないとうまくいかないと思います。

博物館だけで何かやろうと思っても上手くいかない。学校の伝統と先生方の実力を借りないとうまくいかない。そういう意味では、学校教育と社会教育は両輪だといって一生懸命やった時代もありました。今も大いに連携を図る必要があると思います。

昔は社会教育というと公民館でした、そのうち博物館、また一段落して今は情報世代だから図書館、うまい具合に伝統を利用してお互いが協力していけば社会教育はもつと思います。ばらばらにしちゃったらもたなくなる。公民館は何をやるか、博物館は何をやるか、図書館は何をやるか、それぞれが違うと思うが、協力して両輪になって、その上に生涯教育が乗って遠くまで行く。そういう発想です。

今はお金の話ばかりですが、昔の教育の原点に帰るようなことも必要ではないかと思います。そうでないと文化なんてすぐ駄目になってしまいます。熱心な人が異動したり定年になったらそれで終わりとなったりします。あれだけ全盛だった考古学が県であっても。ここは学芸員が頑張っているからいいですけど。すぐ年とりますよ。継続は力なりみたいにしていくところに、こういう社会教育施設の強さがあります。それが成り立たないで、自分が在籍している時にあんなことやりました、こんなことやりましたと言っても、すぐ時間が経ってしまう。それよりシステムを導入していくような形に持っていく。事業数だけでなくそういうソフトを導入して次の世代に送っていく。そのシステムを開発した方がより残っていくという気がします。

他にないようでしたら、議題（１）の「平成２８年度下半期事業計画について」事務局に説明を求めます。

事務局（半澤）：（説明する）

事務局（稲葉）：（金鈴塚古墳研究について説明する）

金鈴塚古墳研究については今年の3月に覚書と協定を更に3年間延長しました。そして今月の26日には、これまでの研究の成果を発表するという形で歴博フォーラムという形をとらせていただきました。歴博の予算で全国に宣伝していただいて、各共同研究者が発表するという形になっております。共同研究の第5号につきましては、冑と銀製の弓矢、そして出土品の台帳について過去に昭和25年に作られた物が見つかりましたので、それらについて報告をしていこうと考えております。今年も再整理報告書の刊行に向けて資料の図化作業等々を進めているところです。以上です。

議長： それでは下半期の事業計画について、ご意見、ご質問ありませんか。
金鈴塚の指定の日程は示されないのですか

事務局（稲葉）：今のところ示されてはいません。再整理報告書の完成を平成31年度末を目途としております。

議長：平成31年度末ですか。

事務局（稲葉）：はい。再指定です。今そのための目録を作成しています。
それに併せて、添付資料として報告書があると大変望ましいということで一生懸命頑張っております。

議長：すばらしい。31年度末ではちょっと遅いな。

事務局（石井）：年に数回文化庁の担当官がおみえになりまして、その指導、指示によって若干整理内容が変わってきます。

議長：わかりました。あらゆる角度から積極的にやったほうがいいと思います。
全国の木更津になるからお願いします。

これについてはこれで説明を終わりにさせていただいて、平成29年度の事業計画を事務局から説明をお願いします。

事務局（半澤）：（議題2について説明する）

議長： 何か、ご質問、ご意見等ありましたらお願いします。
企画展の「スズコレ」、これは協力者いますか。

事務局（半澤）：担当の学芸員から説明します。

事務局（多田）：東京成徳大学から袴（明治時代宮中の洋服）こちらの実物と単袴（貴族の女性の日常の服）の2点を借りようと内諾はいただいておりますが、これからきちんとした話を詰めていきます。そちらを使って3月に成徳大学の方に着付けをしてもらって展示ケースの中に入れます。4月、5月、6月で学生にお願いして袴とか十二単衣を着る体験をしていただこうと考えており、先生とお話をしているところです。他に今回衣食住の衣、生活の根本となるところをただ着飾るだけでなく、社会的身分ですとか人生の儀礼の中にも係わっていくものとして、捉えるのが今回の企画コンセプトです。この社会的身分というところでは、木更津市の消防署から制服をお借りして展示をしようと、動いているところです。

議長： おもしろいと思う。私は美術とかの分野の出身だから凄いなと思いました。美の方をファッションショーで、現代の大学生をモデルとして頼んでいけば、歴史プラス現代のファッションまで繋げられる。大学の協力を仰いで学生も一緒にやってもっと広げればいい。学生にも作ってもらい、それを着て歩いてもらえばいい。変な意味でなくてそうすると当事者になって一生懸命やる。ただ協力して下さいとか助手になって下さいとか言っても駄目だよ。自分か当事者になって何かやりますっていうと良い。だから先ほど言った美術的な面を強調して歴史的な面と両方合わせて、昔だけの衣装を借りてきてやったら博物館の人形が着ているのと同じじゃない。だからそこに動きがあったり、現代風の視点があったりすればいい。例えば清和大学だって先生いらっしゃるのだから協力願ひ、来年度だけでなく継続していけばいい。1部、2部で今年は清和大学、次は成徳大学という形でやっていけば面白いのではないですか。だめかな、私は無責任すぎるかな。発想するときほうんと大きく発想して、絞り込んでいく方が面白いし、良いものが残るでしょう。最初から歴史があって、どこかの展覧会でやっていたような展示よりも、「スズコレ」なんてすばらしい。これすごいと思うよ。もったいない。どうですか。

事務局（石井）：貴重なご意見ありがとうございます。考えて参ります。

議長： うんとやらなくていいのです。入り口の部分、導入部。いきなり完成さ

せようと思うのは駄目です。博物館というのは。とにかく糸口をつけて何かを継続してやっていくことです。10年したら何かをやることです。

先程の話に戻りますが、平成30年度が金のすず開館10周年ですね。これに併せて何か企画をしてもらえないだろうか。翌年じゃ駄目なのです。10何年前から言い続けていますが、やるだけやってみてうまくいけばいい。やらないでいたら何時までたっても変わりませんよ。言い過ぎかな。

それでは29年度の事業計画よろしいですか。

それでは、次のその他。(1)博物館使用料・手数料の取り扱いについて説明をお願いします。

事務局（山口参事兼文化課長）：説明する（非公開）

議長：事務局からの説明がありましたが、ご質問、ご意見等ありましたらお願いします。（委員長より発言あり）

それでは、他に何かありますか。

事務局（石井）：今年度の生涯学習功労で個人の部で中村委員長の受賞が決定いたしました。団体の部で博物館友の会が表彰を受けることになりましたので御報告方々ご披露いたします。おめでとうございます。11月20日の市の生涯学習フェスティバルの式典で授賞式を行うと伺っております。皆さんご都合つきましたらお出でいただければと思います。

事務局（山口参事兼文化課長）：1点は市史編さん便りということで、今文化課では新しい市史編さんを進めているところですが、広く市民の方に知っていただくために今回第1号を作らせていただきました。市のホームページで公開しておりますし、また公民館等にも置かせていただいております。ご高覧いただければと思います。もう1点は市史編さんの関係で公開講座を12月4日の日曜日、中央公民館で実施する予定になっております。テーマは市史編さんすることの意義、それから民俗部会の方からお話いただくことになっております。同封の参加申込書で申し込みをお願いします。

議長： タイミング的にはいいですね。

他にないようでしたら、これにて本日の議題は終了といたします。事務局にお返しします。ありがとうございました。

事務局（稲葉）： 本日、委員の皆様方には、ご多忙のところ、ご出席いただきまして誠にありがとうございました。

今後とも当館の運營業務につきまして、よろしくご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

また、次回の協議会は来年度の4月を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、これをもちまして、平成28年度第2回木更津市郷土博物館金のすず協議会を閉会いたします。

平成28年11月8日

議事録署名人 中 村 哲